

2020年10月5日

# 各種データの分析から見る物流の現状と 今後について

~JILS活動から~



公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会  
Japan Institute of Logistics Systems (JILS)

# 2019年度物流コスト調査結果から

## 調査の体制

委員会(計11名。東京経済大学経営学部教授 中委員長、学識者5名、荷主企業5社、物流子会社1社)  
事務局(JILS)

## 物流コスト調査(荷主企業が対象)

- ・調査の範囲 : ①国内物流 ②単体決算 ③「支払物流費」および「自家物流費」
- ・対象会計年度 : 2018年度
- ・回収期間 : 2019年7月12日～11月15日
- ・アンケート発送数 : 775社(会員及び会員外の製造業、卸売業、小売業、その他)
- ・有効回答数 : 219社(有効回答率28.3%)

## マクロ物流コスト調査

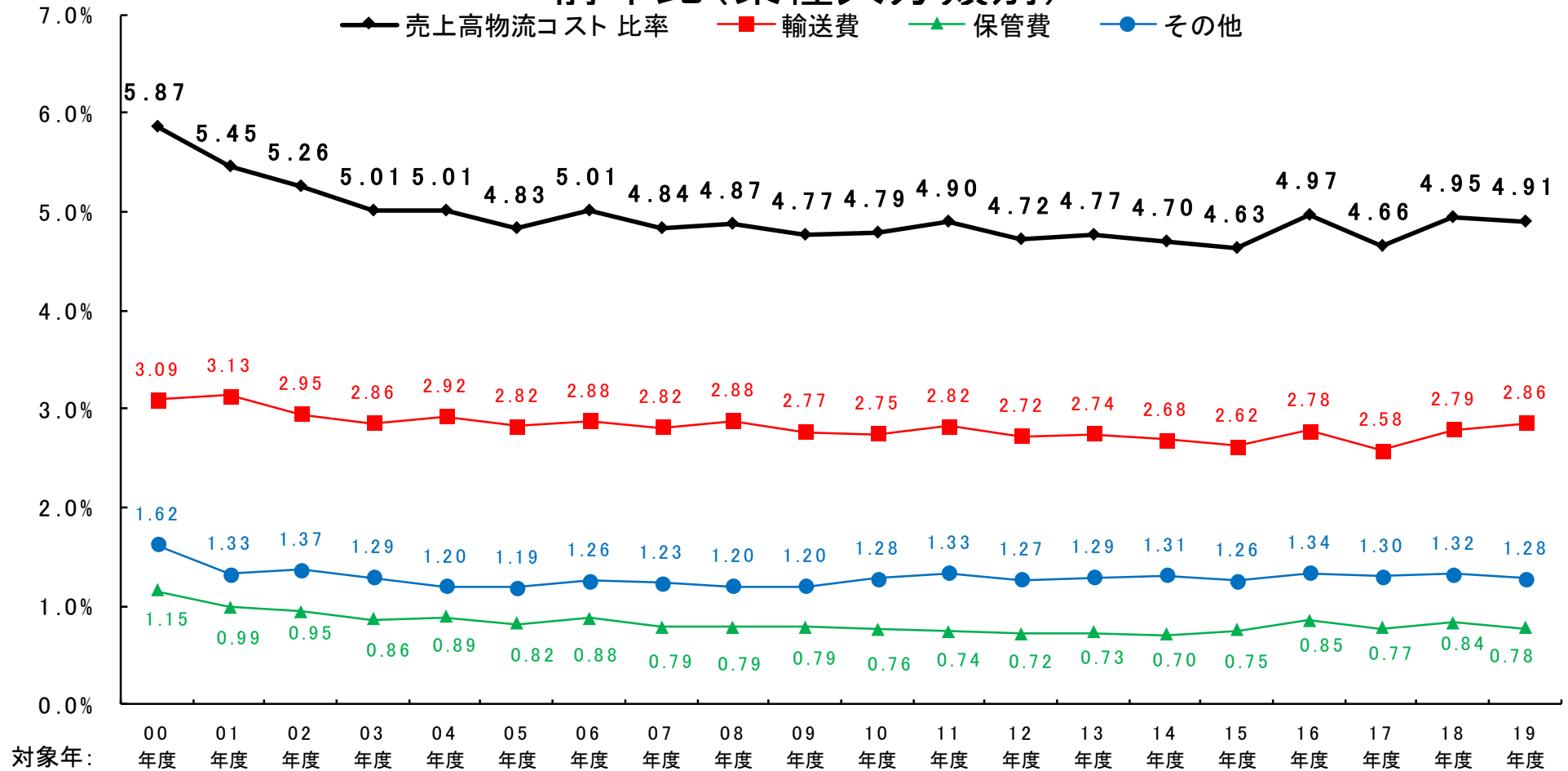
- ・国民経済的観点から、統計をベースとして物流コストを推計したもの(対象は2017年度)

## <参考> 『物流コスト算定活用マニュアル』(1992年)

(目的) 支払物流費に比して従来明らかでなかった自家物流費の分析・把握する算定方式を開発し、物流コストの全貌を把握すること。

- ・ **物流コスト(投入)を測定し、売上高等(産出)で評価してはじめて物流効率が判明する。**
- ・ **物流効率化を推進するためには、物流コストと物流サービス水準を計量的に連動させ、コストの増加をサービスの価格に反映させる必要がある。**
- ・ **物流コストは取引条件の基本となるもの。**

# 売上高物流コスト比率の推移(全業種)と 前年比(業種大分類別)



対象年:

	売上高物流コスト比率			回答数	
	2018年度	2019年度	増減(ポイント)	2018年度	2019年度
製造業	4.90%	4.94%	0.04	159	151
非製造業	5.06%	4.85%	-0.21	58	68
卸売業	5.55%	4.77%	-0.78	37	45
小売業	4.50%	4.35%	-0.15	17	19
その他	2.96%	8.03%	5.07	4	4
全業種	4.95%	4.91%	-0.04	217	219

# 売上高物流コスト比率の内訳

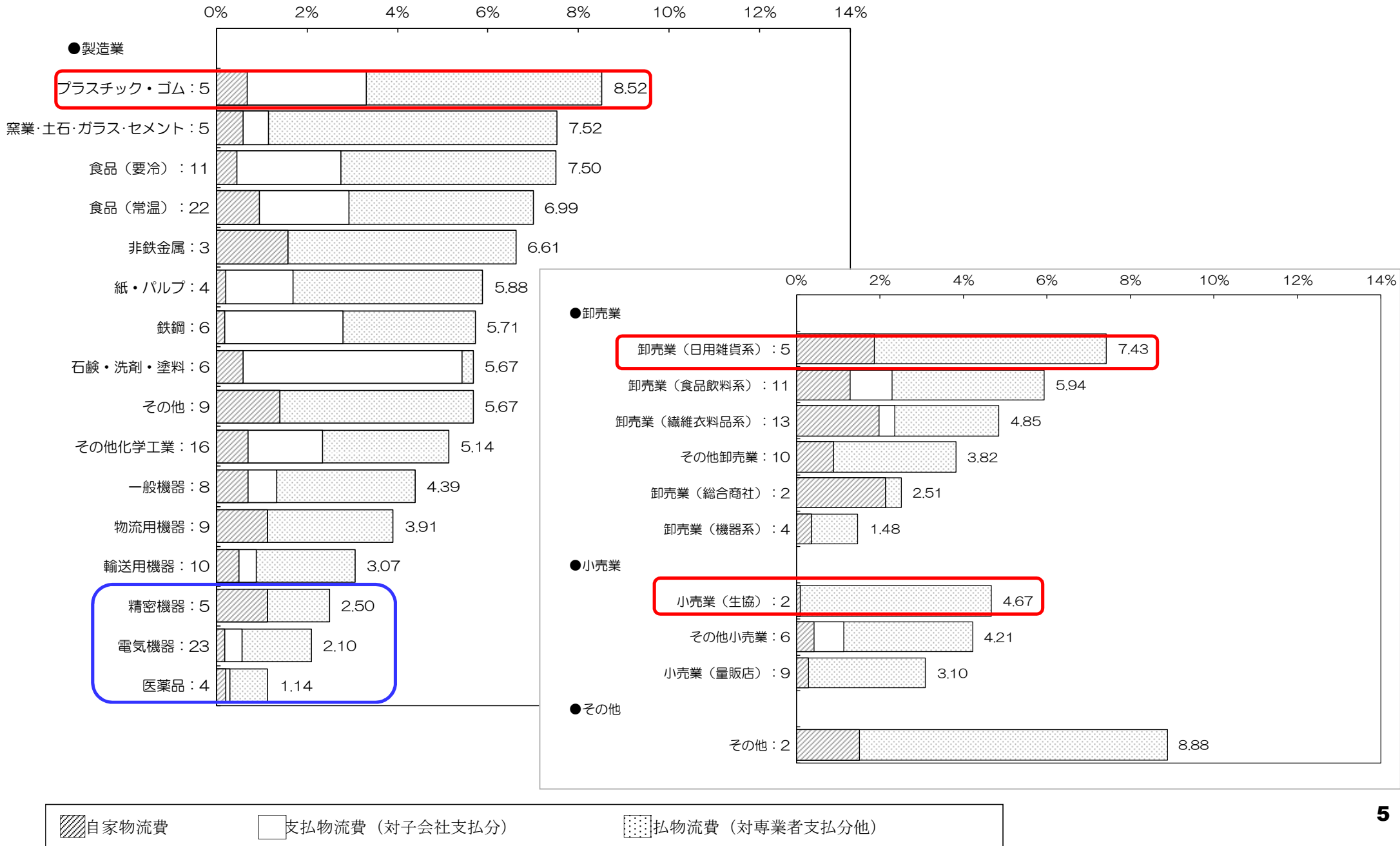
(全業種219社の平均値)

支払形態別		支払物流費 87.93%			自家物流費 12.07%				物流 コスト 合計
		対第三者 支払分	対物流 子会社 支払分	みなし 物流費	物流 人件費	物流 施設費	減価 償却費	在庫 費用	
機能別									
輸送費		48.46%	6.72%	1.69%	0.89%	0.32%	0.10%	58.18%	
	調達輸送費	4.15%	0.14%	1.69%	0.01%	-	-	5.99%	
	社内輸送費	7.88%	1.63%		0.06%	0.08%	-	9.65%	
	販売輸送費	36.43%	4.95%		0.82%	0.24%	0.10%	42.54%	
保管費		8.88%	1.30%		0.62%	1.15%	0.58%	15.81%	
	資材保管費	0.93%	0.12%		0.04%	0.01%	0.04%	2.63%	
	製品保管費	7.95%	1.18%		0.58%	1.14%	0.54%	13.18%	
包装費		3.46%	0.39%		0.18%	0.02%	0.06%	4.11%	
荷役費		11.81%	2.11%		2.06%	0.25%	0.23%	16.46%	
物流管理費		2.95%	0.16%		1.94%	0.18%	0.21%	5.44%	
物流コスト合計		75.56%	10.68%	1.69%	5.69%	1.92%	1.18%	3.28%	100.00%

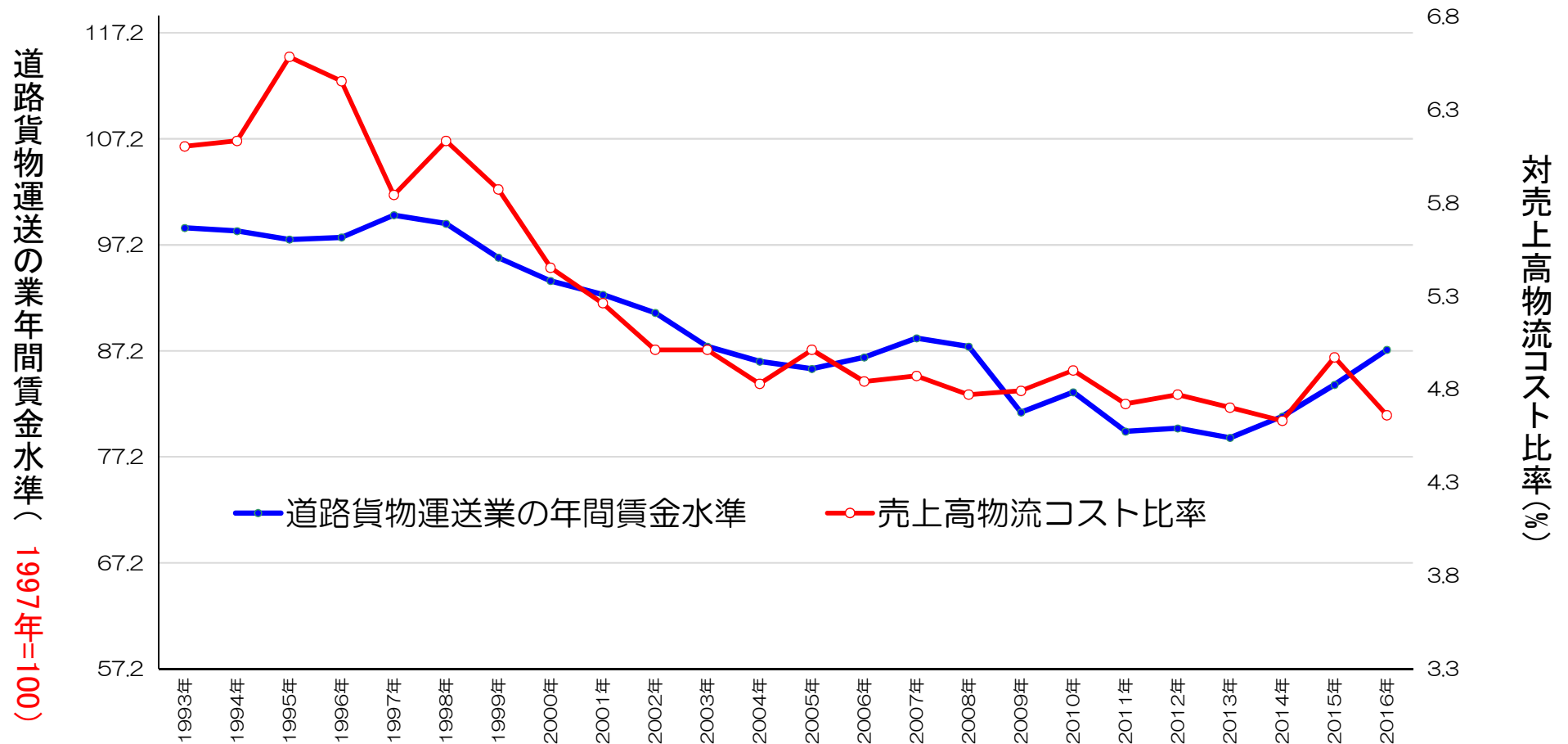
## 領域別

販売物流費（販売輸送費＋製品保管費＋荷役費＋物流管理費）77.62%

# 売上高物流コスト比率(業種小分類別)

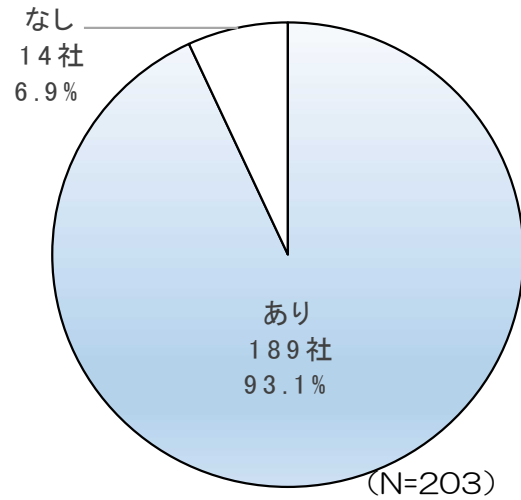


# 売上高物流コスト比率の推移と 道路貨物運送業の賃金水準

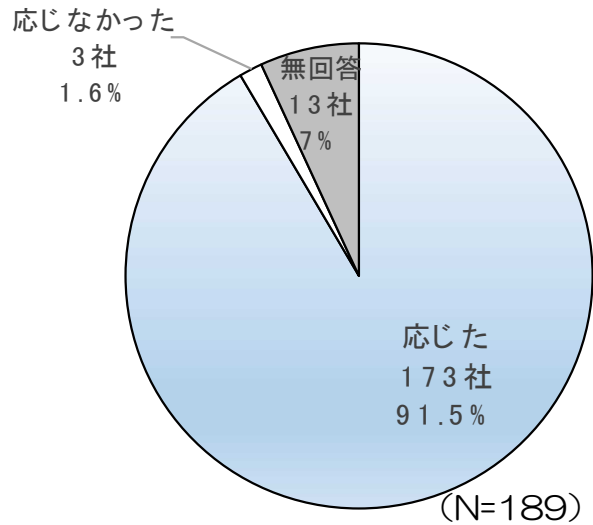


出典：年間賃金水準は『賃金レポート』（連合）、売上高物流コスト比率は『物流コスト調査』（JILS）のデータを用いて作成。  
西暦については、ふたつの調査で年次を揃えるため、物流コスト調査（JILS）については、調査実施年度ではなく、調査実施年度に把握したデータの年度（1年度前）としている。

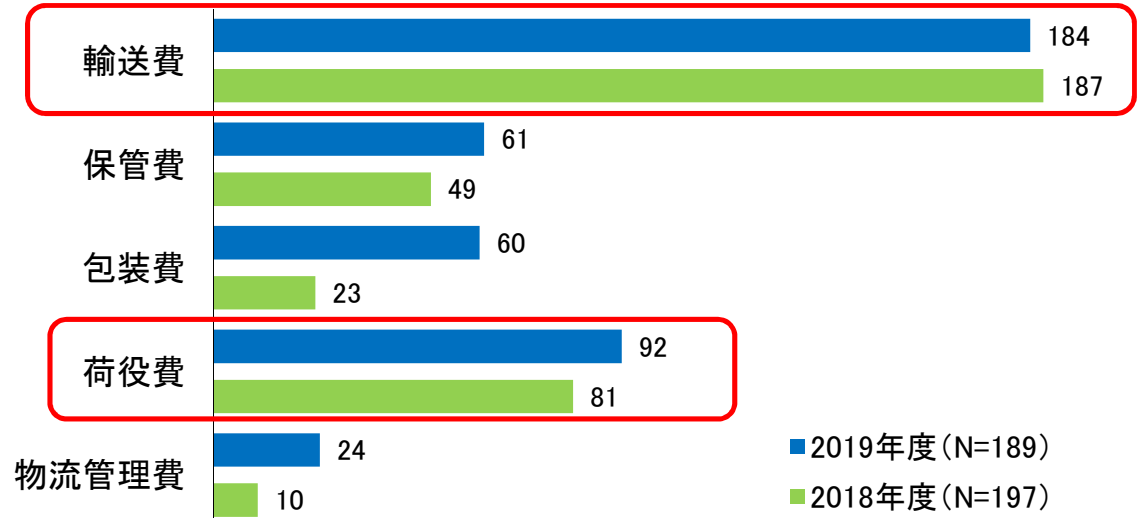
# 値上げ要請の動向(2019年度)



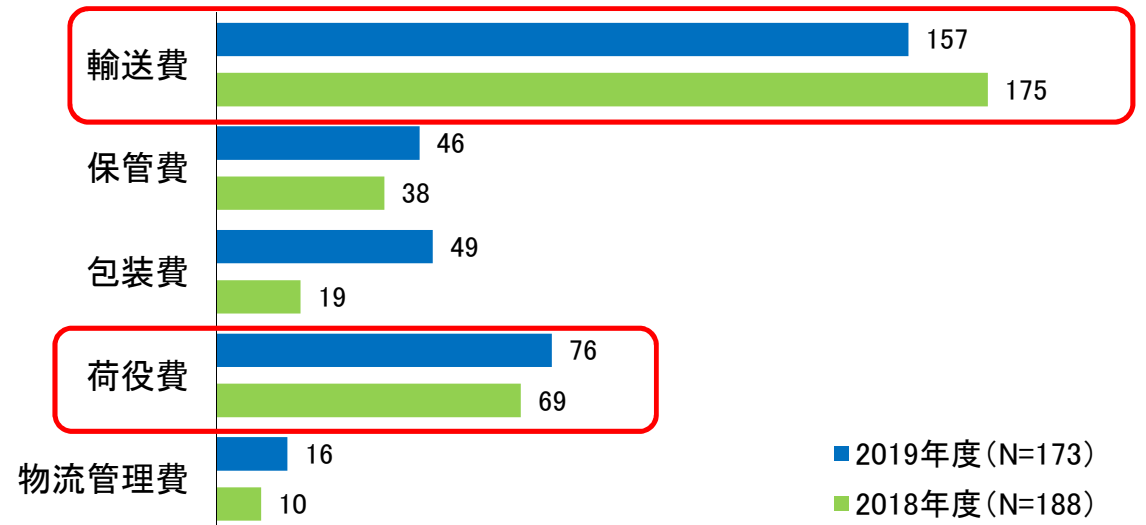
値上げ要請の有無



値上げ要請に対する応否



値上げ要請があったコストの種類(複数回答)



値上げ要請に応じたコストの種類(複数回答)



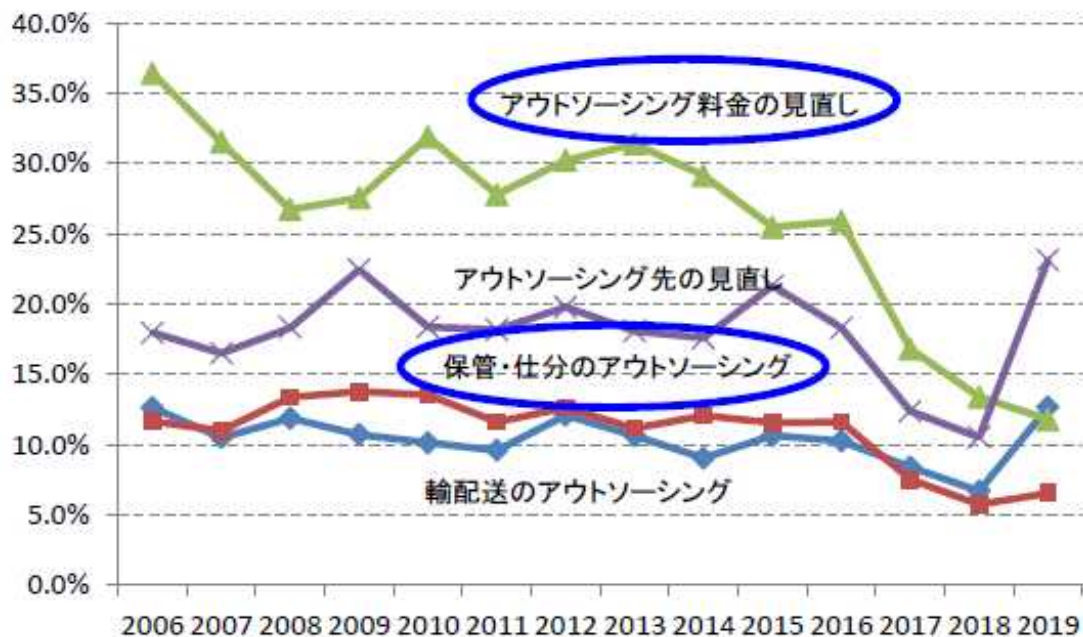
# 物流コスト効率化策の動き (2006～2019)

- ・過去14年間の物流“コスト削減”策の実施率\*の推移を下図に示す。
- ・料金変更等に係る施策のうち「アウトソーシング料金の見直し」と「保管・仕分のアウトソーシング」については、トレンド分析の結果から、時系列的に減っていることが確認された。【左図】
- ・また、取引条件の見直しに係る施策のうち「配送頻度の見直し」と「物流サービスの適正化」(いずれも物流部門が自社内の他部門やさらには他社と連携して取り組む施策)については、トレンド分析の結果から、時系列的に増えていることが確認された。【右図】
- ・これらの動きを見る限り、物流“コスト削減”策の高度化は進行しつつあると思われる。

\* ) 実施率 = 過去1年程度に実施したコスト削減策への回答企業数 (39～45社からMA) / 回答企業数 (%)

## ◇取引条件の見直しに係る施策の実施率の推移

### ◇料金変更等に係る施策の実施率の推移



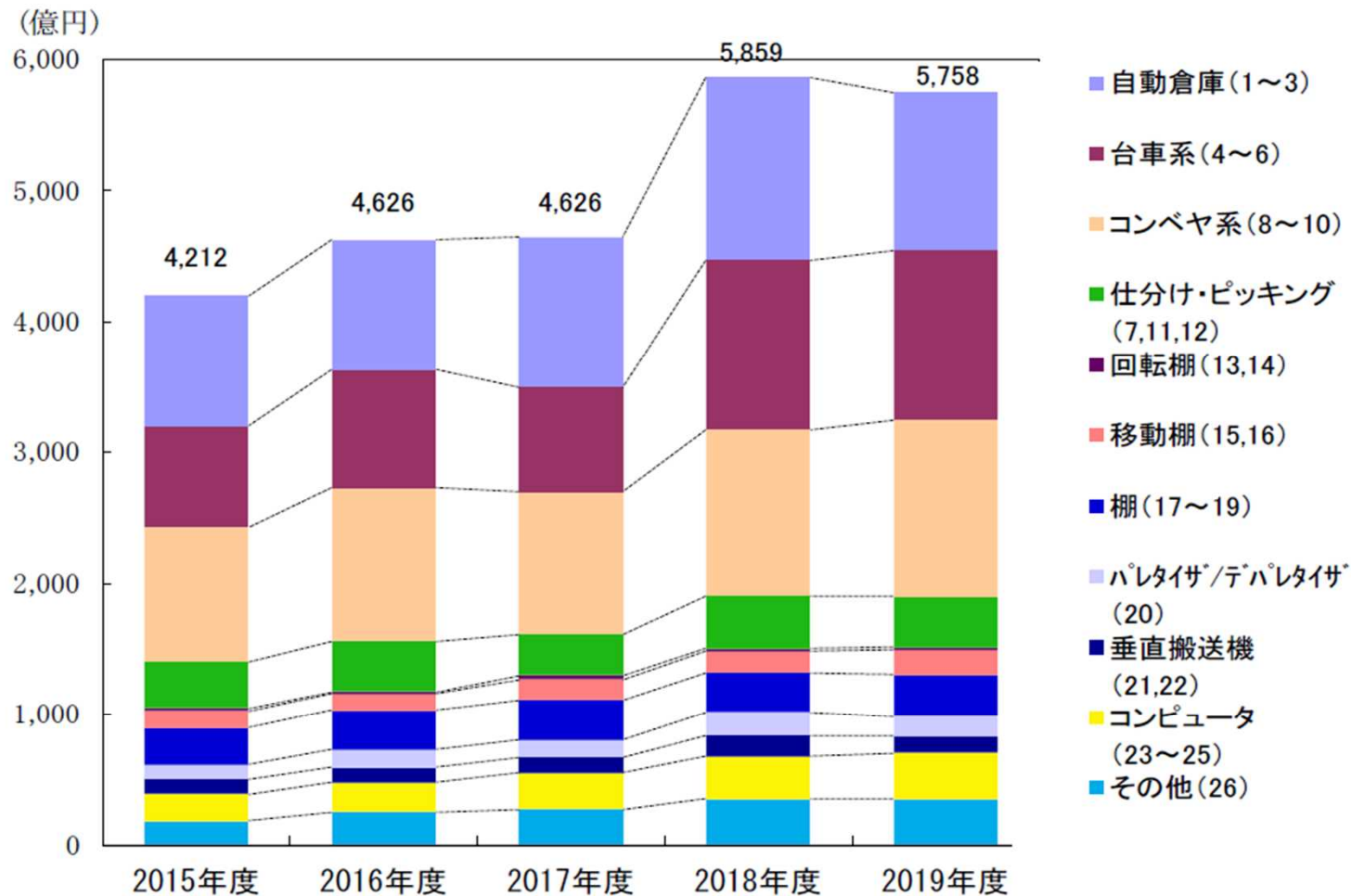
### ◇取引条件の見直しに係る施策の実施率の推移





# 2019年度物流システム機器生産出荷統計調査結果から

## 総売上金額の推移



金額	421,167	462,594	462,643	585,870	575,756	(百万円)
前年比	121	110	100	127	98	(%)

# JILSアンケート調査「新型コロナウイルスの感染拡大による物流・サプライチェーンへの影響」について

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会（JILS）の「**会員・広報委員会**」では、**新型コロナウイルス感染症**（COVID-19）の世界的な拡大による、**物流およびサプライチェーン面での状況**について、関係各位の情報共有を行うとともに、「新しい生活様式」における今後の対応策検討に向けた一助とするため、アンケート調査を行った。

## 第1回

### ■調査方法

メール案内、WEB回答方式

### ■調査期間

2020年3月11日（水）～2020年3月13日（金）

### ■調査対象・回答状況

<調査対象>

JILS会員企業の荷主および物流企業：789社

<回収状況>

有効回答社数 182社（回答率23.1%）

### ■公表日

2020年3月18日（水）

## 第2回

### ■調査方法

メール案内、WEB回答方式

### ■調査期間

2020年6月16日（火）～2020年6月23日（火）

### ■調査対象・回答状況

<調査対象>

JILS会員企業の荷主および物流企業：678社

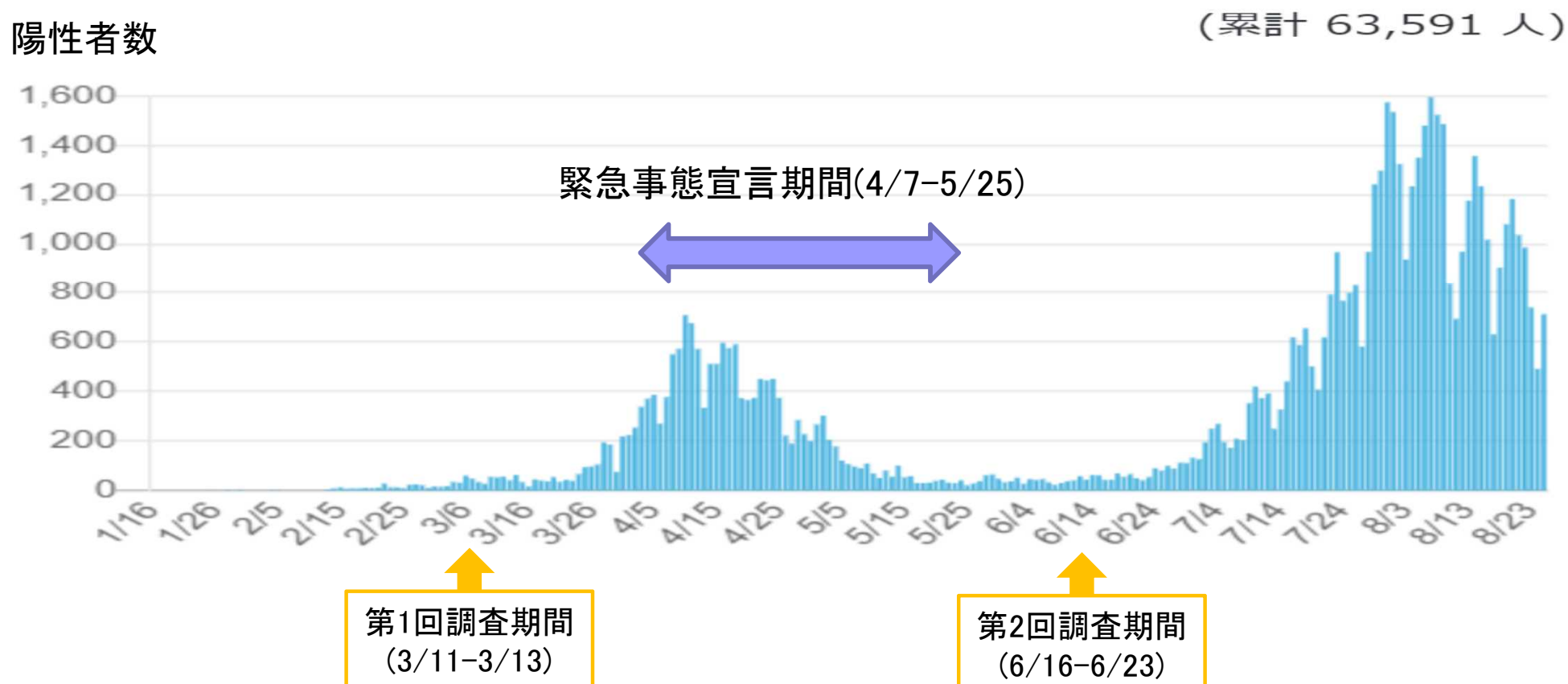
<回収状況>

有効回答社数：146社（回答率21.53%）

### ■公表日

2020年6月30日（火）

# アンケート調査実施期間と国内の感染者発生状況



出典 厚生労働省ホームページ(国内の発生状況など)  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html#h2\\_1](https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html#h2_1)

## アンケート調査結果の概要

### 第1回調査(2020年3月18日)

- サプライチェーンの混乱が浮き彫りに
- 業績へのマイナス影響は避けられず
- BCPに苦慮するも企業間連携で難局を乗り越える動き

(参考)調査結果報告書

#### ▼第1回調査

<https://www1.logistics.or.jp/news/detail.html?itemid=294&dispamid=703>

#### ▼第2回調査

<https://www1.logistics.or.jp/news/detail.html?itemid=309&dispamid=703>

#### ▼JILS WEB「Withコロナ時代の知恵と工夫」

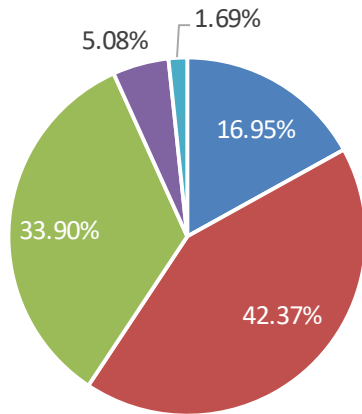
<https://www1.logistics.or.jp/coronavirus/>

### 第2回調査(2020年6月30日)

- サプライチェーンの混乱が拡大
- 急激な需給の変化に困惑しつつ、企業は物流が止まらぬように奮闘
- 航空貨物におけるコスト上昇、輸送の遅れ等が顕著
- 積極的に取引先と物流条件を調整し効率化を進める企業も
- 業績へのマイナスがさらに懸念される傾向
- 新しい生活様式が、サプライチェーンの商慣習に変化をもたらす

# 物流・サプライチェーンにおける影響

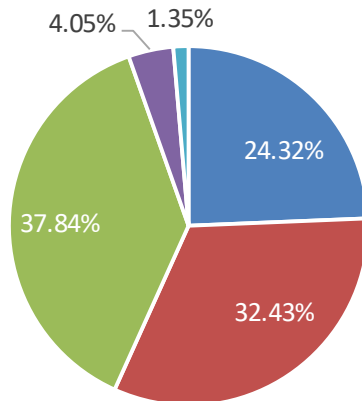
## 荷主企業



- a) 全社的な課題が発生した。
- b) 一部に課題が発生した。
- c) あまり影響はない。
- d) 影響はない。
- e) 不明

n=59

## 物流企業



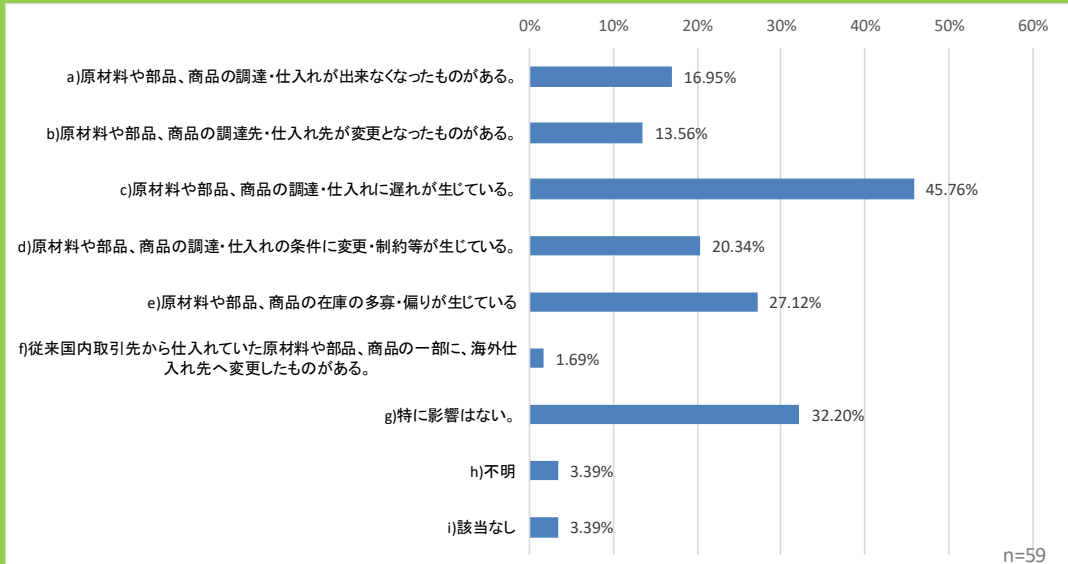
- a) 全社的な課題が発生した。
- b) 一部に課題が発生した。
- c) あまり影響はない。
- d) 影響はない。
- e) 不明

n=74

出典: アンケート調査

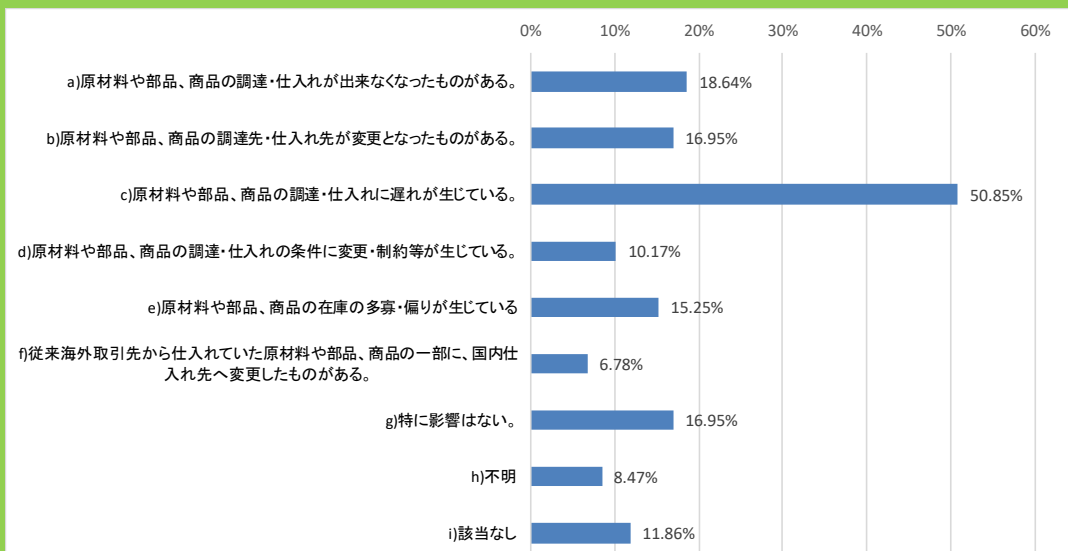
「新型コロナウイルス感染症 ( COVID 19 ) の 拡大による物流・サプライチェーンへの影響について」調査結果  
2020年6月30日 p.6

## 【国内の取引先からの、原材料や部品、商品の調達・仕入れの影響】



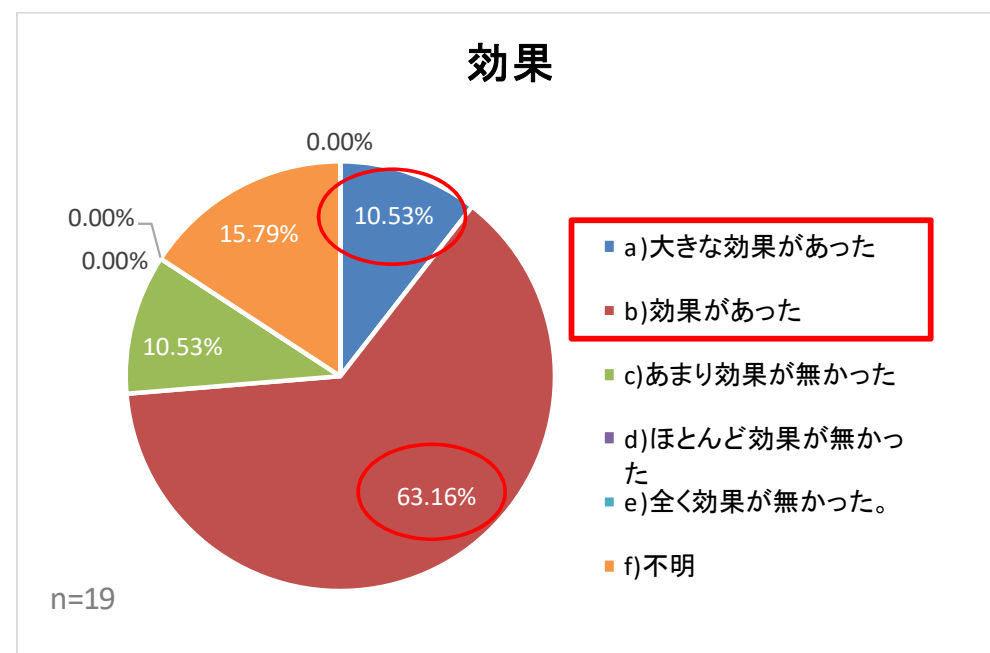
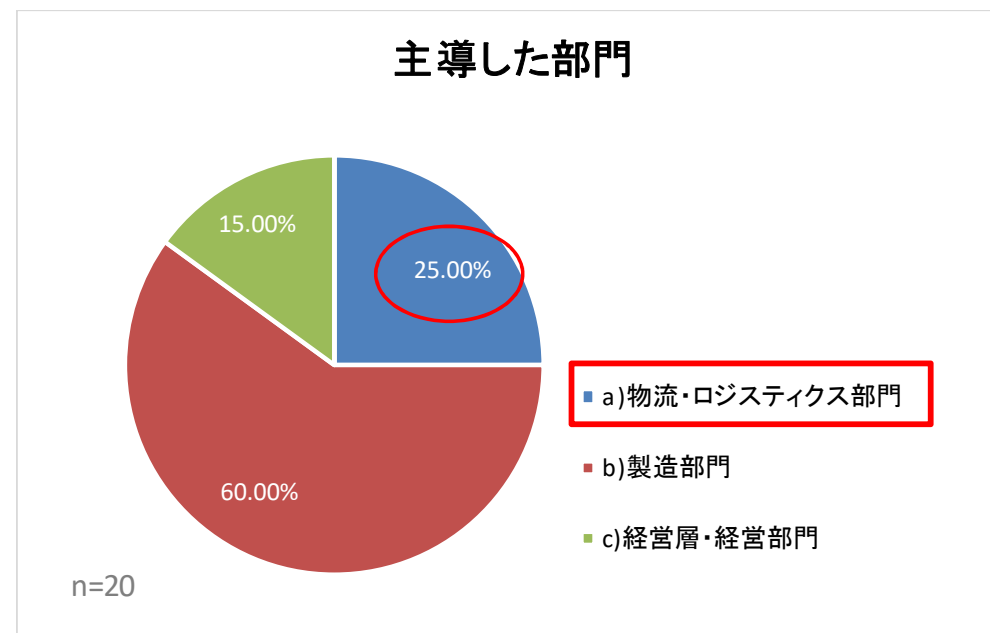
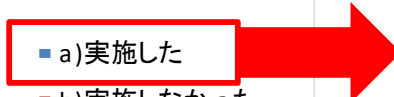
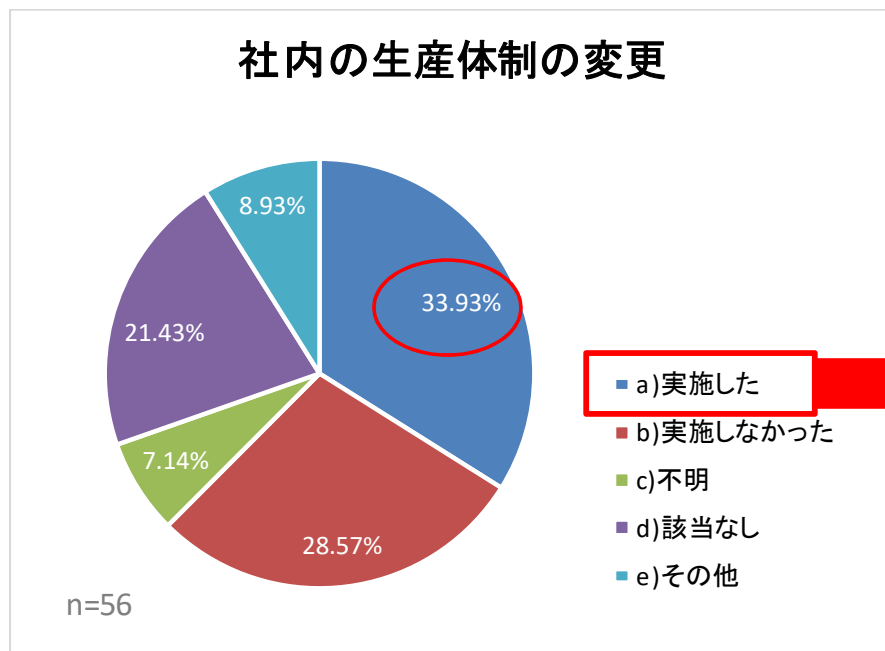
n=59

## 【海外の取引先からの、原材料や部品、商品の調達・仕入れの影響】



n=59

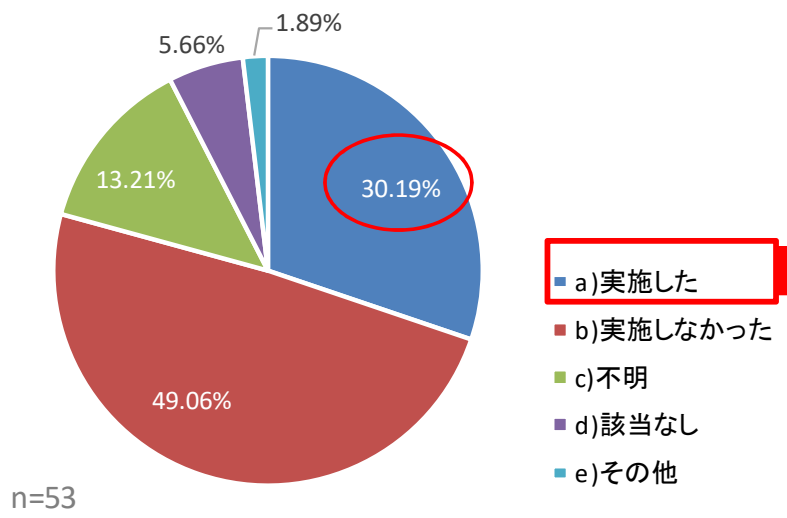
# コロナ禍に対応して荷主企業が実施したこと①(生産体制の変更)



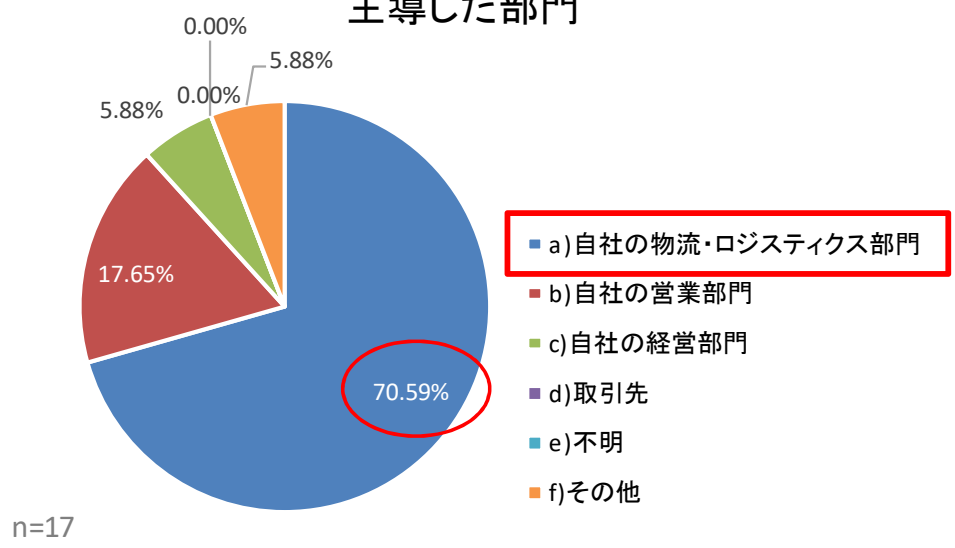
出典: アンケート調査  
 「新型コロナウイルス感染症 ( COVID 19 ) の 拡大による物流・サプライ  
 チェーンへの影響について」調査結果  
 2020年6月30日 p.33

# コロナ禍に対応して荷主企業が実施したこと②(取引先との調整による物流条件の変更)

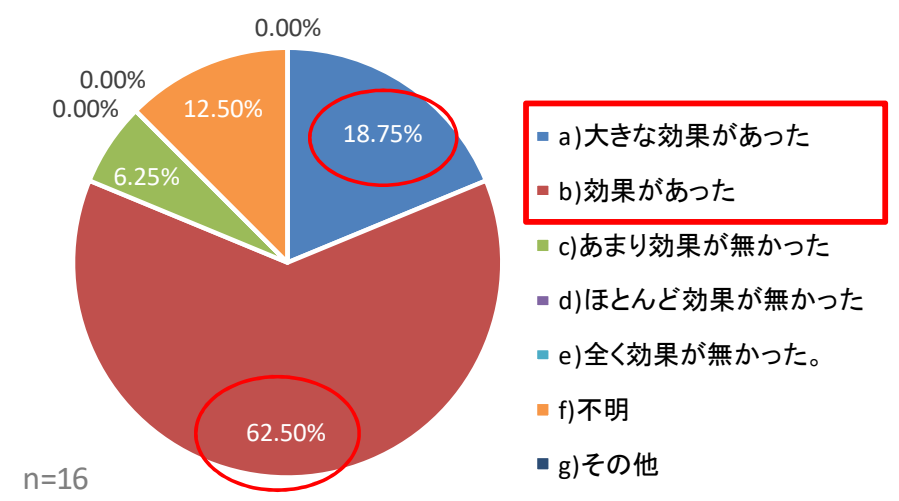
取引先との調整による物流条件の変更



主導した部門



効果



出典: アンケート調査  
 「新型コロナウイルス感染症 (COVID 19) の拡大による物流・サプライチェーンへの影響について」調査結果  
 2020年6月30日 p.34



# 物流人材育成

## 企業人向け人材育成事業

- ・ロジスティクス経営士資格認定講座(東京1回)
- ・ストラテジックSCMコース(東京2回)
- ・物流技術管理士資格認定講座(東京2回・大阪2回・名古屋1回)
- ・国際物流管理士資格認定講座(東京1回)
- ・物流現場改善士資格認定講座(東京1回)
- ・ロジスティクス基礎講座(東京2回・大阪1回・名古屋1回・福岡1回)
- ・物流技術管理士補スクーリングの開催(東京2回・大阪1回・名古屋1回)
- ・テーマ別、階層別セミナー・コースの開催
- ・通信教育／物流教育DVD教材(日本語版・英語版)
- ・社内教育／コンサルティング
- ・書籍の提供



**課題:DXやロボティクスに対応する高度物流人材育成プログラム開発**

# 学生向けの普及活動 「ロジスティクス・物流研究プロジェクト」

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会(JILS)は、学生(大学生・大学院生・短大生・高専生・専門学校生)に向けて、ロジスティクス・物流の社会や産業界における重要性、仕事としての魅力等を伝えることで、**学生のロジスティクス・物流に対する認知度や理解度を高め、この分野を支える人材の裾野を広げること**を目指し、活動している。

## ツールの制作



学生向けWEBページ  
「KEEP ON MOVING!」



<https://keeponmoving.jp/>

## 企業実務家の大学への派遣

- ◆東京女子大学  
「資生堂におけるロジスティクス・SCMのしごと」  
(株)資生堂
  - ◆青山学院大学  
「今までの物流とこれからの物流」  
(株)日立物流  
「ビジネスをより強固に！ マクドナルドのSCM強靱化施策」  
日本マクドナルド(株)
  - ◆西南学院大学  
「物流の仕事とは ートヨタ自動車九州株式会社の事例ー」  
トヨタ自動車九州(株)  
「物流の仕事とは ー日本通運株式会社の事例ー」  
日本通運(株)
- (実績の一部紹介)

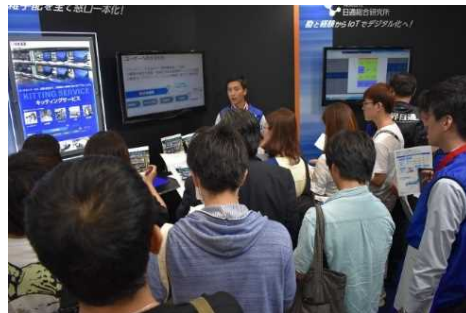
## 大学教員と産業界の情報交流

- 「大学におけるロジスティクス・物流教育の実践状況」講演会・名刺交換会
- 大学にて行われているロジスティクス・物流に関する教育内容や、最近の学生の動向などを大学教員からレポートをいただくとともに、卒業生の現在の業務内容などを紹介、企業担当者への情報提供を行うとともに、産業界と大学関係者との情報交流の活性化を図った。
- ー参加者ー
- ◆ロジスティクス・物流に関連する教育に携わる教員・関係者: 17名  
青山学院大学、朝日大学、学習院大学、専修大学、中央大学、東海大学、東京海洋大学、東京工業大学、東京女子大学、東洋学園大学、日本大学、明治大学、横浜商科大学、流通経済大学(順不同)
  - ◆企業の人事担当者およびロジスティクス・物流担当者: 119名

## 展示会・物流施設の学生向けツアー実施

「大学生のためのロジスティクスソリューションフェア2019見学ツアー」

- ◆参加者  
青山学院大学、学習院大学、専修大学、中央大学、東京女子大学、流通経済大学の学生 60名



- ◆プログラム
  - ①レクチャー  
「ロジスティクス・物流分野におけるテクノロジーの活用」
  - ②ブース訪問  
学生が各15名程度の4グループに分かれ企業ブースを訪問、出展企業に説明をいただいた。

## 企業と学生を結ぶ「MEET LOGI!」

「ロジスティクス・物流業界研究フォーラム MEET LOGI!2019」

学生がロジスティクス・物流の仕事への理解を深め、ロジスティクス・物流分野を支える人材の裾野を広げることを目指すため、「学生がロジスティクス・物流の仕事を実感する」をコンセプトに、「ロジスティクス・物流業界研究フォーラム MEET LOGI!2019」を、東京・大阪・福岡で開催した。

- ◆主なプログラム
  - ・講演セッション「ロジスティクスという名のフロンティア」
  - ・セミナー「いまさら聞けない SCMって何？」
  - ・ミーティング「若手社員に直接聞いてみよう」
  - ・先進企業による企業紹介ブース など
- ◆参加登録人数  
東京: 320名 大阪: 126名 福岡31名



## 大学合同ロジスティクス講演会

- ◆開催日  
2019年8月4日(日) 13:00～17:00
- ◆参加者  
青山学院大学、学習院大学、専修大学の  
SCM関連ゼミ生 68名
- ◆プログラム



時間	内容	講師
13:00-13:50	【講演】 加工食品におけるサプライチェーンの現状 —物流の課題をロジスティクスで解く—	JILS総合研究所 北條 英
13:50-15:30	【事例講演】 加工食品業界の物流共同化 —持続可能な加工食品物流プラットフォームの構築 を目指して—	味の素(株) 上席理事 食品事業本部 物流企画部長 堀尾 仁氏
15:30-15:50	【課題提示】 「東京2020年大会開催期間における加工食品メーカーのSCMはどうあるべきか」	—
16:00-17:00	質疑応答	味の素(株) 物流企画部

## 大学合同研究発表会・交流会

- ◆開催日  
2019年12月14日(土) 13:00～18:00
- ◆参加者  
・青山学院大学、学習院大学、専修大学のSCM関連ゼミ生 80名  
・企業関係者 20名
- ◆プログラム

時間	内容	講師
13:00-13:10	課題提出の趣旨・背景について	JILS総合研究所 北條 英
13:10-17:00	【研究発表】 「東京2020年大会開催期間における加工食品メーカーのSCMはどうあるべきか」 各大学2チーム×3大学 6チームからの研究発表 ・発表時間20分／質疑応答10分	大学生6チーム
17:15-18:00	【交流会】 協賛企業による各賞発表 学生と企業関係者との交流	—



### ■概要■

企業実務家がSCM・ロジスティクスに関する活動をレクチャーし、産業界の具体的な課題を学生に提示する。学生はその課題に対する解決策の検討、立案、発表を行い、発表結果に対して企業からのアドバイスを受けることでSCM・ロジスティクス分野への関心と理解を深める。また、企業講演、研究発表会を通じて、大学・産業界のネットワーク構築を図り、今後の産学連携活動の推進につなげる。

### 2020年度研究課題:

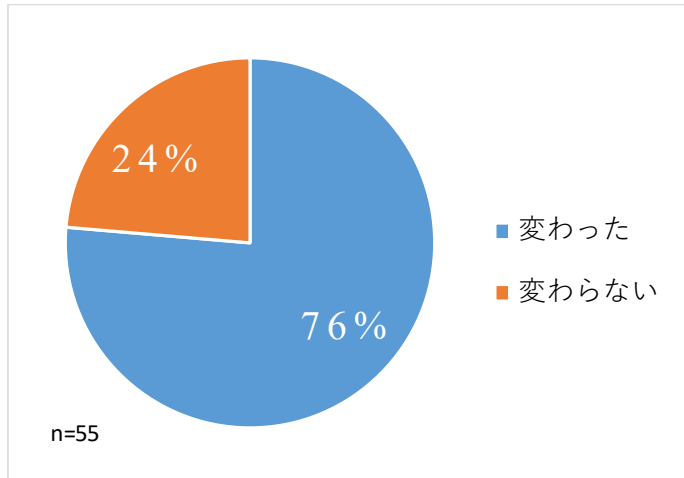
「WITHコロナ時代の加工食品サプライチェーンの在り方～何を変えるべきか！」



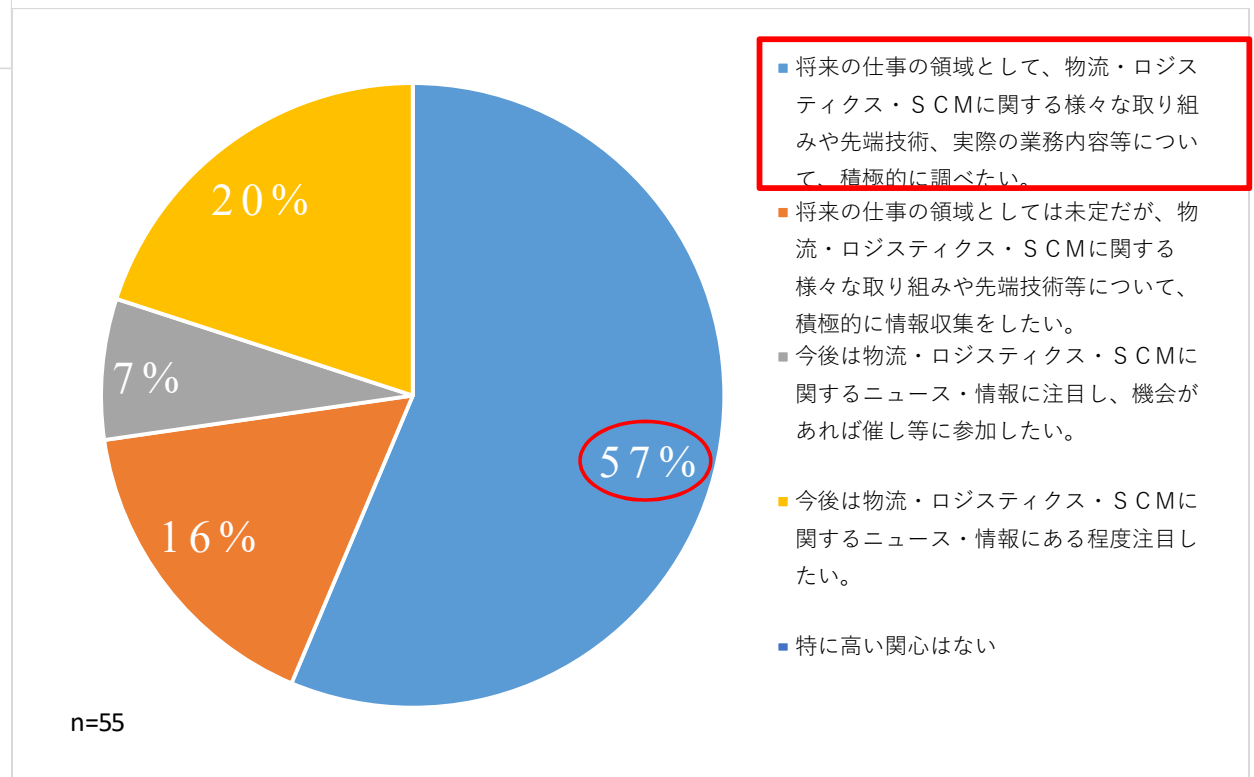


# 大学合同ロジスティクス講演会(2020/8/8) **参加後**の学生アンケート結果から

- Q: 講演会に参加後、物流・ロジスティクス・SCMのイメージは変わりましたか？



- Q: 物流・ロジスティクス・SCMへの、現在の関心度合について、お聞かせください。



# ロジスティクス・物流研究プロジェクト 学生の成長イメージ

製造業の営業・生産管理・商品開発・マーケティング担当等  
流通業やサービス業等の営業職 等

新たな活動の創出

DFL※の視点からの物流・ロジスティクスの  
基本知識や標準化の重要性の認識を学び、  
ロジスティクスのリテラシーを身に付けて  
製造業や流通業、情報企業に就職しても、  
活躍できる人材を目指す。

物流企業および荷主企業等のロジスティクス関連業務

実践期(3年次～)

ロジスティクス・物流のスペシャリストになる。  
・物流技術管理士、物流現場改善士 等

基礎醸成期(1-2年次)

社会人としてのロジスティクス基礎知識を学ぶ。  
・ロジスティクス基礎講座

就職準備期(4年生)

ロジスティクス・物流の情報収集をする。  
・KEEP ON MOVING! WEBサイト

深堀期(3年生)

ロジスティクス・物流の役割を学ぶ。  
社会人と情報交流する(体感する)。  
・学生研究発表会  
・MEET LOGI!  
・物流センター見学会

導入期(1-2年生)

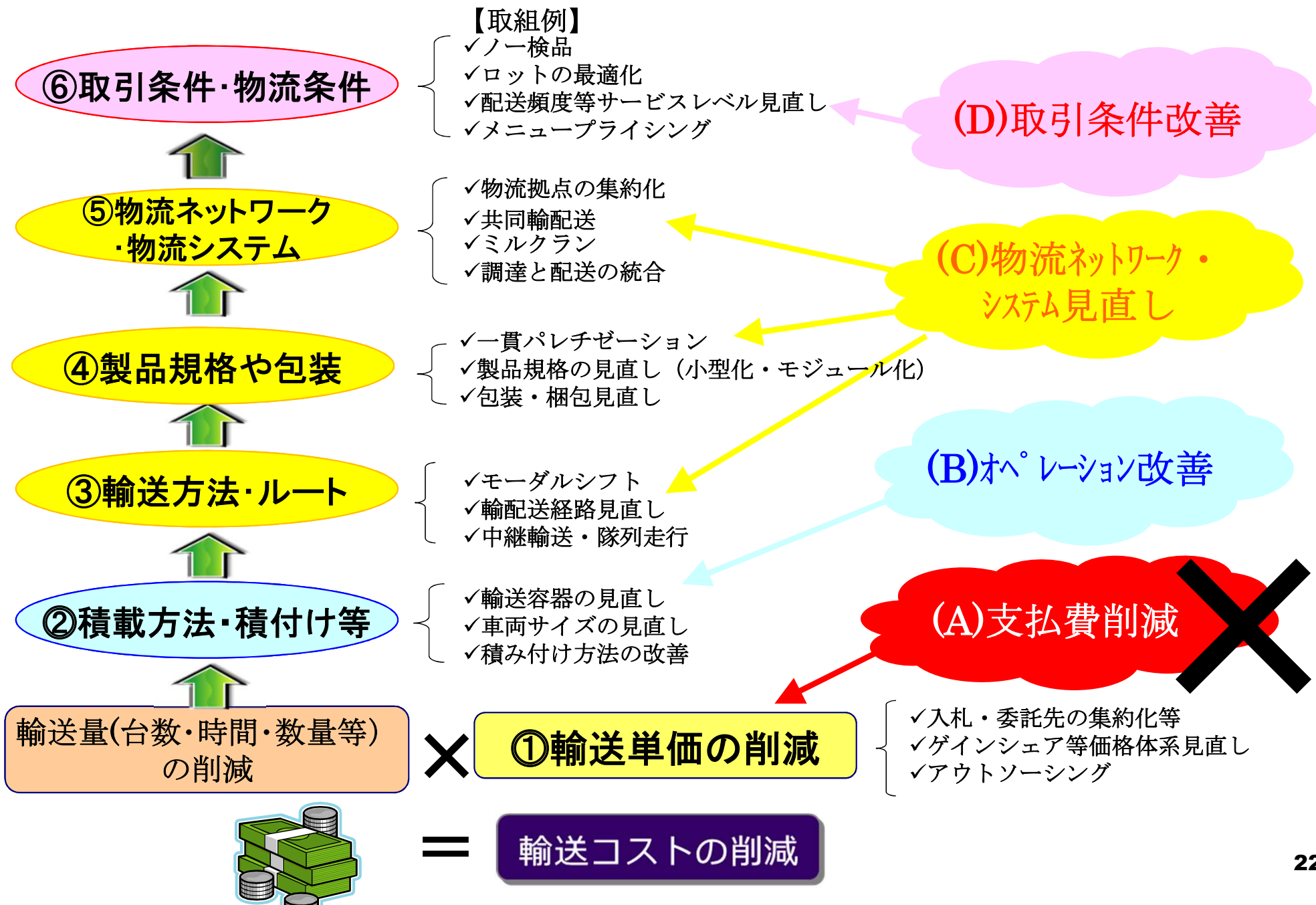
ロジスティクス・物流の役割を正しく知る。  
ロジスティクス・物流の仕事の魅力を知る。  
・ガイド「KEEP ON MOVING!」  
・LOGISTICS Pro-File  
・KEEP ON MOVING!WEBサイト

※DFL: Design for Logistics  
多様化や変化に対応しながらロジスティクスの効率化を維持するために、製品・荷姿の再設計や、補充や物流プロセスの再構築まで遡った対策・考え方の総称。

社会人

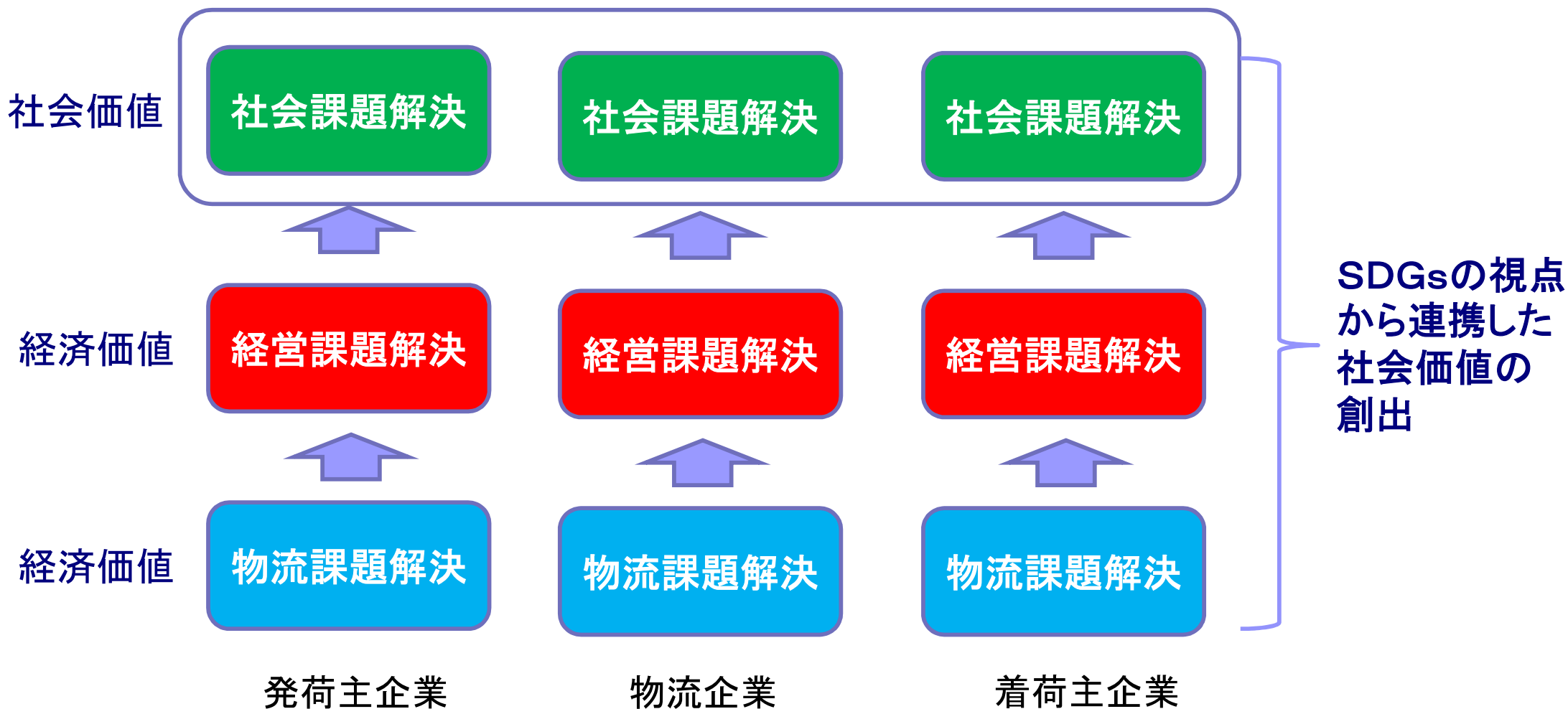
大学生

# 物流の社会課題は物流だけでは解決できない





# 物流の社会的課題を企業間連携で課題解決

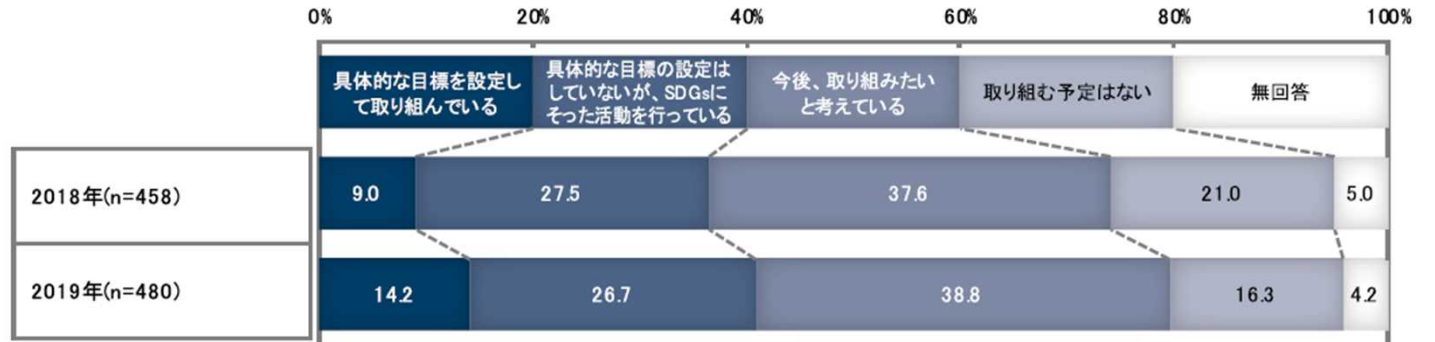


**KGI:** ①労働生産性向上 ②物流リソースの稼働率向上 ③環境負荷低減

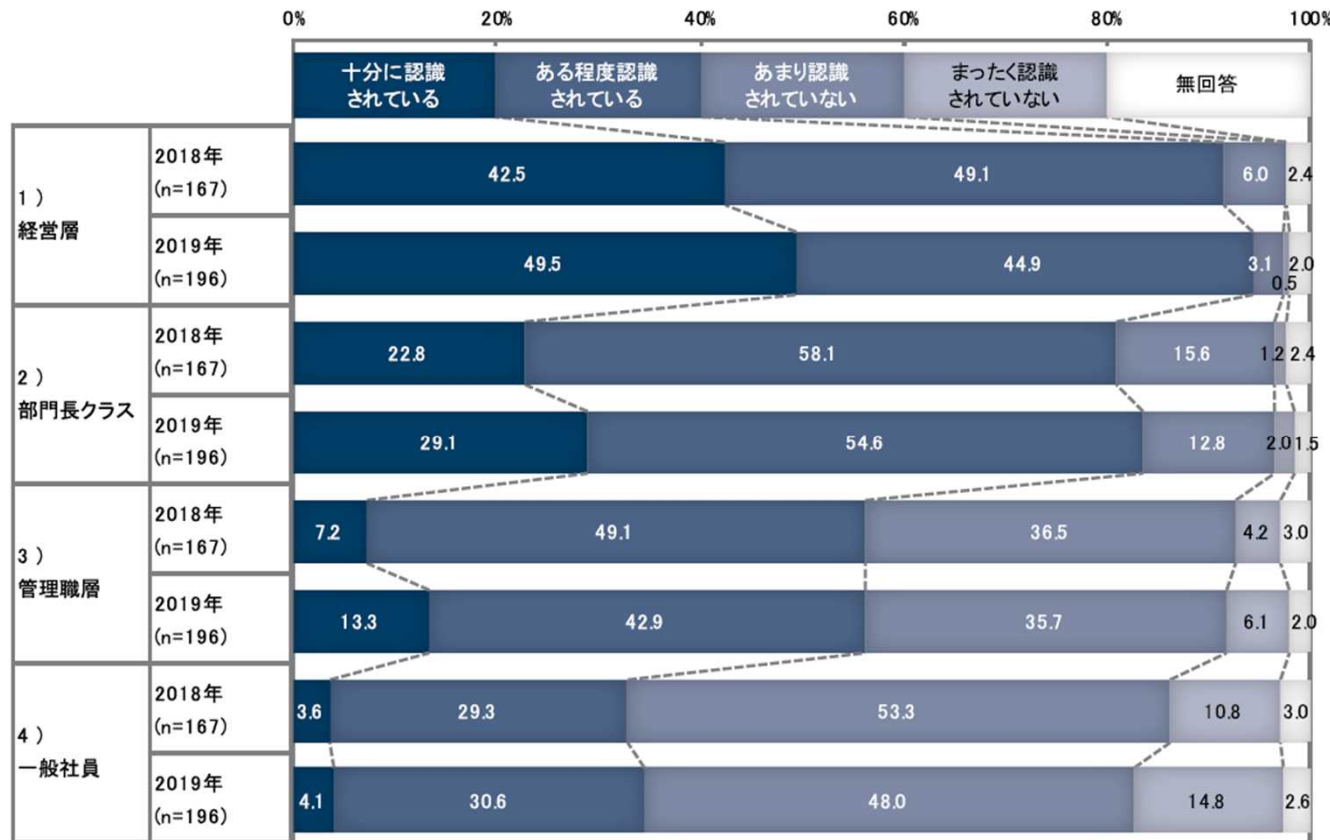
# 経営者はSDGsを経営戦略としている



## SDGsが掲げるいずれかの目標への取組状況



## 自社で取組んでいるSDGsに関する活動の認識状況



**SDGsと物流の社会課題を結び付け、部門間や企業間連携で、持続可能な物流に向けた課題解決に取り組む**

**(何か仕組みやツールが必要か?)**

# 新・総合物流施策大綱への期待

## ○SDGsの視点から物流の社会課題を解決

- ・女性や高齢者が活躍できる環境整備等  
待機時間や附帯業務の削減、一貫パレチゼーションの推進 等
- ・総合物流施策大綱の施策項目にSDGsの目標をプロット

## ○DX・ロボティクス化に向けた標準化の推進

- ・コネクティドインダストリーやクロスインダストリーを実現するためのハード・ソフトの標準化の推進（一社単独での物流の終焉）
- ・情報連携による新たなビジネスモデルや業務プロセスの創出 等

## ○高度物流人材育成の推進

- ・産・学・官連携による学生と企業人の育成
- ・文理融合のリベラルアーツな物流人材育成 等